



なゆたん通信



私が働くうえで実践していることの一つに「毎回、子どもたち一人一人の良いところを見つけ褒める」ということをしています。皆様も普段から実践されていることもあると思いますが、褒めることについて私が気を付けているポイントをいくつかご紹介させていただきます。

・3Sの実践…「すごい」「さすが」「素晴らしい」

私の中で上記の3つの言葉を「3S」と言っています。言葉に加え大人の表情やしぐさ(拍手など身ぶりや手ぶりを交えながら)、笑顔で伝えています。特に子どもが「見て見て」と、自分が作ったものやできたことを見せてくる時は、褒めてあげる絶好のタイミングです。ややオーバーリアクション気味に褒めてあげてもいいかもしれません。ただ注意していただきたいのが褒めるときは褒める・叱るときは叱るという“メリハリ”も大切です。また褒め過ぎ・叱り過ぎても良くないので“バランス”も大切になってくると思います。

・短い言葉でその場で褒める

時間が経ってからでは何で褒められたのか分からなくなってしまいます。そうすると、褒めたときの効果が少なく、あるいはなくなってしまうことにもなりかねません。褒める・叱るは直後が大切。一旦、手を止めて子どもと向き合うようにしています。

・名前を入れて具体的に褒める

「〇〇くんお片付けが上手だね」「〇〇ちゃん大きな声で挨拶ができてすごいね」
何がすごいのか・何が上手なのかを伝えるようにしています。



・目線を合わせて褒める

叱る時も気を付けているのですが、子どもと目線を合わせることです。子どもが自分の言っていることを聞いているか、本当に伝わっているか、子どもが褒められたと実感できているかを知る大切なことだと思います。

・成長を実感させるように褒める

「〇〇ができるお兄さん・お姉さんだね」重要なことは結果ではなく過程(プロセス)を褒めるようにしています。

・自分の気持ちを伝える

「〇〇してくれて先生は嬉しかったよ」その「うれしい」の気持ちを言葉にしています。つまり自分の気持ちを伝えることによって自分の行動が人の心を動かしていると実感することにも繋がるかもしれません。



昨年度、管理者と講演会(子どもの行動と向き合う～褒め上手なお母さんを目指して～)でお話させていただいた内容となっております。



次回第 16 号も『褒める』シリーズ続きます…